

心理学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

人間の心や行動を理解するために、ICTを用いて文献検索や資料の収集、レポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる。

【到達度】

情報検索・処理・発信に関する基本的な技術を利用できる。

心理学関連の文献、資料の所在を知っており、またインターネット情報の限界を知り、目的に応じて適切に検索することができ、その情報の信頼性を評価できる。

適切な引用方法を知った上で、収集した情報に基づいたレポート作成やプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

は、初年次教育で設定されている情報処理科目で対応する。

は、演習や講義などにより、CiNii、PsycInfo、EBSCOなどのデータベース、日本心理学会を初めとする内外の心理学関連諸学会・団体のサイト、各種マス・メディアの情報などから、目的に応じた文献や資料の検索方法、情報の信頼性について理解させる。

は、演習や講義などにより、文献や資料の引用の仕方や剽窃という概念、自分の考えの述べ方について理解させ、実際にレポートを書かせ、添削する。

【到達度確認の測定手段】

～ は、レポート、テストや教育支援システム等を用いて確認する。

【到達目標 2】

人間の心や行動に関わる現象を明らかにするために、実験・調査・検査・観察にICTを活用することができる。

【到達度】

研究目的に応じて科学的に行動を観察し、数量化することができる。

収集したデータの解析（適切な解析方法の選択と実施）を行い、その解析結果を評価、解釈することができる。

倫理的側面に配慮した研究計画を立てることができる。

アンケート調査、心理検査にインターネットを利用することの可能性と限界を理解できる。

心理学実験にコンピュータを用いることができる。

【教育内容・教育方法】

は、人間の心や行動をどのように測定できるかについて講義した後、心理学実験法などのような実習科目を通じて、実際に研究課題を設定して、実験や質問紙調査のデザイン作成及びデータ収集・整理を行わせる。その際、どのようなデータ解析を行うべきであるかについて事前に考えられるようにしておく。

は、実習科目において得られたデータを分析することを体験させ、その解析結果の解釈を修得させる。

～ は、倫理的側面を教育した上で、ICTを用いる実験や質問紙調査を計画させ、一連の研究プロセスを体験させる。また、そのために必要なプログラムの作成法や汎用ソフトの使用法を学修させる。

【到達度確認の測定手段】

～ は、レポートや学修ポートフォリオを通じて確認する。

【到達目標3】

ICTを用いて、社会の諸現象の理解に心理学的な視点を応用することができる。

【到達度】

ウェブサイトやブログなどから、様々な人間の異質性や多様性の存在を認識できる。

ウェブサイトやブログなどから、社会現象の背後にある人間の心や行動を理解できる。

【教育内容・教育方法】

と は、演習や実習科目を通じて、インターネット上で観察される社会現象の中からいくつかを選択し、問題の原因や対処法について心理学的視点から考察することを体験させる。

【到達度確認の測定手段】

と は、レポートや学修ポートフォリオを通じて確認する。